

The 2 Chome Times 平成30年11月号

NO1のプレミアムストリートをめざして



NO246.

2018・11月・25

発行 神戸三宮センター街2丁目商店街振興組合 (tel331-3091) (fax333-8591)

2丁目タイムス11月号

編集：企画・商業振興部、編集長：芹澤邦明 <http://www.centergai2.com> E-mail:centergai2@nifty.com

フェイスブックでも発信しています <https://www.facebook.com/centergai2/>

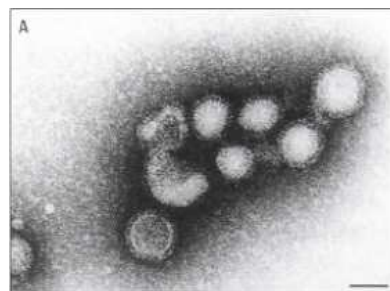


2丁目目でKOBE Free Wi-Fi ご利用いただけます

★インフルエンザの季節ですね

竹村クリニックよりお知らせがありました。「今年もインフルエンザの接種が10月15日より開始となっております。インフルエンザに罹患しますと一般に一週間程度の安静が必要となり、仕事などへの影響があります。極暑の後には、インフルエンザの流行が早まることが予想されますので早めの接種をお勧めします」とのことです。皆さん、早めに越したことがありませんのでよろしく接種の方をお願いいたします。

A型インフルエンザウイルス



竹村クリニック 場所：さんプラザ3階 [TEL:391-3131](tel:391-3131)

診療時間：月曜から金曜日まで午前9:30～12:00 午後13:30～16:00 木曜日は午後休診

受付時間はそれぞれ30分前です。 土曜 日曜 祝日は休診です。

★フェルメール展 上野の森美術館

先日、東京に行く機会があり、現在上野の森美術館で開催されているフェルメール展に行ってみました。皆様も有名な作品、「耳飾りの少女」は観られたことがあるのではないのでしょうか。ヨハネス・フェルメールは17世紀のオランダを代表する画家で、人々の日常を題材とする風俗画を主に描いています。フェルメールは残した作品が少ないため、その希少性においても有名です。今回は世界の名立たる美術館の協力のもと貴重な9作品が日本で公開されており、ドレスデン国立古典絵画館の「取り持ち女」など、数点の日本初公開の作品が含まれています。もちろんどの作品も素晴らしく、ジッと見入ってしまい、

(東京上野の森美術館)



視線を逸らすのが惜しく感じてしまう程でした。興味深かったのは作品の中に描かれている品々や人物像がそれぞれ例えば「恋は危険である」、「節度を保ち、感情を抑制することが大事」といった寓意を暗示していることでした。この展覧会にはフェルメールだけではなく、オランダ黄金時代を築いたフェルメールと同時代の巨匠の作品が多く紹介されています、例えばハブリエル・メツやヤン・ステーンといったオランダ絵画の広がりや独創性を創り出した画家達です。個人的に印象に残ったのはヤン・ウェーニクスの「野兎と狩の獲物」でした。貴族の特権であった狩猟でその獲物となった野兎の柔らかな毛並みはそのフワフワ感が半端ないもので、薄い色でその写実がどのようにすれば出せるのか一瞬考え込んでしまいました。テレビ番組でもフェルメールのことが特集

されたばかりです。このフェルメール展は来年の2月に大阪でも開かれます。その案内をご紹介しておきますので、このまたとない機会をどうぞお見逃しなく！

フェルメール展 大阪市立美術館 (大阪市天王寺区茶臼山町1-82) 天王寺公園内

会期：2019年2月16日(土)～5月12日(日) 月曜日休館(祝休日の場合は開館し、

翌日休館) 料金：一般 1800 円 前売り 1600 円 (2019 年 2 月 15 日まで販売)

詳しくは「大阪市立美術館 フェルメール展」で検索して下さい

★おとな旅神戸ガイドツアー 秘蔵写真でめぐる神戸三宮の時間旅行 参加受付中!

おとな旅神戸は「お約束は、ワンランク上の”まち感覚”です」のキャッチフレーズで普段は体験できないようなことを地元の人が案内する神戸市のガイドツアーです。三宮センター街でも 2014 年から、”隠れた老舗”、”港との意外な関係”などいろいろな切り口で案内しています。2019 年は昭和レトロ感たっぷりの秘蔵写真を見ながら、タイムトラベル気分を味わえるような内容を企画しています。おとな旅・神戸のホームページから参加申し込み受付中です。

いつも見ている三宮センター街が違って見えるかもしれませんよ。奮ってご参加ください! 実施日時：2 月 23 日(土)13:30~16:00 参加費：3,900 円(試食、お土産付)

ほかにも神戸をより深く楽しめるツアーが沢山予定されています。詳しくは、おとな旅・神戸ホームページ：<https://kobe-otona.jp/> をご覧ください。

★三宮センター街視察研修旅行

三宮センター街 2 丁目の今年の視察研修旅行は 11 月 7 日~9 日の日程で中国の北京へ行ってきました。3



日とも晴天に恵まれ、それ程寒くもなく、空気も澄んで、北京名物?のсмоッグも感じられませんでした。

北京の人口は、現在 3,000 万人で東京の 3 倍です。その分、車が多く、至る所で渋滞が発生しておりました。もはや、昔の自転車通勤のイメージがなく、高層ビルが立ち並ぶ光景は、GNP 世界第 2 位



の経済大国の首都です。そんな北京の現在と「万里の長城」で代表される歴史を訪ねた 3 日間でした。初日は、「天安門広場」、「紫禁城」、見学の後、名店「全聚徳」本店で本場の北京ダックを堪能しました。2 日目は自由行動で、それぞれ「万里の長城」や街歩きを楽しみました。3 日目は無事に帰国の途につきました。最後に、今回のツアーのお世話をして頂きましたセントラルツアーズの不破社長様をはじめ、社員の皆様に感謝申し上げます。

★編集後記

最近プラスチックごみをめぐっての問題が注目されていますね。海亀の鼻にストローが刺さっていて、そこから出血しており、人間がそれを取ろうとしているのですが、海亀が痛そうにしている様子には胸が苦しくなりました。それでもそういったプラゴミの処理をしっかりとすれば問題はないと安易に考えていました。しかし、先日のテレビの特集で今まで中国に輸出していたプラゴミが、当然の帰結ながら不可能になり、国内のプラゴミの処理にも限界にきていることを知り、愕然としました。それに加えて海洋でプラスチックが細くなったものが自然に食べ物を通じて私達の体内に入っているという事実もショックでした。他にも処理が不十分な PCB が海洋に流れていて、食物連鎖の頂点にあるシャチが 100 年後には地球上からその存在を消すかもしれないということにも、ある意味恐怖を感じました。便利さを追い求めてしまった人間の罪なのでしょう。私達個人個人にできる事は少ないのかもしれませんが、でもせめてコーヒーショップなどで提供されるストローやプラスチック製のスプーンなどはお断りして、可能なら自分の家庭から再利用が可能な物をカバンに常に入れておくといったことから始めてみませんか。個人の心がけが結集していかないと大きなうねりにはなりません。どうぞ皆様も一度考えてみて下さい。

